平成 29 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 人文学部

氏 名 田中綾乃

活動テーマ	三重県におけるアートマネジメント養成プログラムの開発
実施期間	平成 29 年 6 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>平成 29 年度は、アートマネジメント養成プログラムとして、3つのプログラムを実施すると共に、アートマネジメントのプログラムの妥当性について、有識者たちと意見交換を行い、三重県の中での実施プログラムのあり方について検討を行った。</p> <p>活動としては、(A) 舞台芸術振興のためのアートマネジメント講座として、舞台技術講座と文化政策講座を開講した。文化政策講座では、アートマネジメントの研究者である静岡文化芸術大学の片山泰輔先生をお招きして、2020 の文化プログラムが実施されている中でアートマネジメントの状況や 2020 以降の文化政策のあり方について講義を受けるとともに議論を行った。</p> <p>(B) 10 月には、教養講座として、古典の歌舞伎を現代化している木ノ下歌舞伎の木ノ下裕一氏を迎えて、「古典作品を現代化することの意義」というテーマで講演会を開催した。クラシックなものを現代の文化の中に取り込むということは、伊勢音頭をはじめとした古典作品や民芸が豊富に存在する三重県においては、必要な視座である。</p> <p>(C) 12 月は、実践的な体験講座として、国際交流との共同開催として「十二単から知る日本文化の魅力」を開催した。実際に十二単の着</p>

用を体験して、日本文化の魅力を再発見するという講座は、留学生たちにはたいへん好評であった。本講座は、県のオリンピックの beyond2020 のプログラムとして申請をし、承認を得た講座である。

(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）

(A) のアートマネジメント講座は、2017 年度は予算の関係で縮小講座となってしまったが、それでも伊勢市、津市、四日市の文化振興課の職員の参加があり、アートマネジメント講座が必要とされているのを感じた。

(B) の教養講座は、学生が主体だったが、地域の方々の参加も多く、特に古典作品ということで、シニアの方々の関心が高かった。また、県の文化振興課や三重県文化会館の職員の参加もあった。

(C) は、圧倒的に留学生の参加が多く、日本文化を気楽に楽しむ体験型の講座であった。

(3) 共同実施者との連携状況

アートマネジメントの人材育成は、三重県の「新しいみえの文化振興」の方針でもあり、(A) は三重県の要請で、(B) も三重県の協力のもとに連携して実施している。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

アートマネジメントの考え方は、現在の日本社会においては、教育、福祉の分野で必要とされているもので、本学でも過去3年間の文化庁の助成の活動成果を踏まえて、本学においてどのようなプログラム開発が必要となるのか引き続き考察を行っていく。

(5) イベント等開催実績 (名称, 実施場所, 参加人数等)

- ・ 舞台芸術振興のためのアートマネジメント人材育成講座
- ・ 舞台技術講座

場所：三重県文化会館小ホール

日時：2017年9月7日(火) 10:00～17:30

参加人数：28名

- ・ 文化政策講座「劇場・音楽堂が拓く2020以降の自治体文化政策」

講師：片山泰輔(静岡文化芸術大学教授)

場所：三重大学人文学部校舎 第1講義室

日時：2017年9月25日(月) 10:00～17:30

参加人数：32名

- ・ アートマネジメント養成プログラム教養講座
「古典作品を現代化することの意義」

講師：木ノ下裕一(木ノ下歌舞伎主宰)

場所：三重大学教養教育校舎 190番教室

日時：2017年10月18日(水) 14:40～16:10

参加人数：120名

- ・ 「十二単から知る日本文化の魅力」

場所：三重大学三翠会館

日時：2017年12月11日(月) 12:10～15:00

参加人数：65名

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

※継続4年目以降(認定)の活動については、これまでの継続した取組みによって得られた具体的な成果について記述願います。